秋本事件控訴判決書

山口縣吉敷郡小郡村五百七十八番屋敷

控訴人兼被控訴人　秋本辭三郎

辯護士

右訴訟代理人　大隅復之

仝　上

信吉五郎

山口縣吉敷郡上宇野令村二百六十一番屋敷

平民

被控訴人兼控訴人　秋本モト

辯護士

右訴訟代理人　小河源一
仝　ヨ　千々松安左衛門

右當事者間ノ隱居無効及ビ隱居取消請求事件ニ付キ明治二十三年一月廿四日山口地方裁判所ガ言渡シタル第一審ノ判決ニ対シ當事者双方ヨリ控訴ヲ為シタリ因テ本院ニ於テ立会検事義重次郎ノ意見ヲ聽キ判決スルコトヽセリ

當事者双方ノ控訴ニ基キ原判決ヲ全部廢棄ス

控訴人被控訴人秋本静三郎ハ被控訴人秋本モトヽノ請求ニ應ジモトヽガ明治二十三年五月廿二日為シタル隱居ヲ取消サンムヤシ

被控訴人モトヽノ其余ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ各審級ノ判決ヲ控訴人被控訴人ノ可請ニ帰ス

辯論延期々日表更ニ依リ全シタル部分及ビ第一ニ審ノ費用中十分ノ三ハモトヽ負テ其余ハ凡テ控訴人被控訴人静三郎ニ於テ各之ヲ負擔ス可シ

事實

控訴人秋本静三郎（復呈ノ為ノ明治三十三年字第三十九号）控訴人トシ同年字第四十五号ノ控訴人ヲ被控訴人ニシ以下ニ掲ク訴訟代理人ハ原判決中西縣吉敷郡小郡村第五百

七十、番屋敷ニ明戸主原告秋本モトノ明治二十三年五月二十
日ノ隠居ニ之ヲ無効トスト、部分ノ農業ヲ被控訴人ノ請求
ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ第一二審共被控訴人ノ負担タ
ルベシ被控訴人ノ控訴ハ之ヲ棄却スト、判決ヲ求ム旨一審ヲ
為シ同ジ事実關係ニ付キ演述シタル要旨原判決事実ノ指
示中當時原告ノ実母マサノ叔母カ夫刑務ニ服リシトノ世評起リ
タルヲ以テ原告ノ家ヲ相續セシメナイ世評ノ為ノ場合ニ於
ゼンヲ恐レ親族ニ決シタリトノ事実ヲ除クノ外同橋示ノ如ク
演述ヲ為シタル上柳モ秋本家ハ被控訴人ノ先代吉左郎死亡
後一家ノ經濟ニ毎年五百円以外ノ不足ヲ生シ年々負債
ノ増スノ状況ナリシカ之ニ反シ訴外人吉富甞一ハ縣下有数ノ
大勢力家ニシテ且ツ自カラ三十万円以上ノ資産ヲ有スルノミナラズ
其次男ニシテ控訴人ノ実兄タル二田寧二ハ縣下唯一ノ富豪家
ナレバ偖テ三万円内外ノ資産ヲ有スル人ニ過ギザル秋本家ヲ押領
セシガ為メ如ノ策ヲ弄スル事ナキナリ畢竟社先ヨリノ誣ノ事
実ニシテ秋本家ニ援護ノ意ヲ以テ控訴人ヲ入籍セシメタル者ニ
ナリ訴人ガ被控訴人ヨリ月額ノ相続人トナリタルハ被控訴
人ノ実母マサノ計策ニ外ナラズ又控訴人ヲ鈴木家ニ長シテ
秋本家維持ノ為用ニ立ツ時機ニ達セシニ依リ被控訴
人ハ速ニ康毅慢性胃腸病ニ基ク黄疸ノ併発ニ到

貳男子ニ配スル能ハサル体候ハヽ之ニハ本件親族一同協議ノ上被控訴人ヲ離縁スルノ已ムヲ得サル事ヲ以テ被控訴人ヲ廣田マサト協議ノ末分家籍ニ財産分割ヲ為シタル者ヨリ故ニ控訴人ハ前述ノ事情ニ鑑ミ深ク被控訴人ノ事ヲ慕シ現今ニ至マテ爲ス妻ヲ迎ヘサル次第ニテ為ニ控訴人ハ被控訴人カ本件ノ第一審ニ提起セル以前ハ乙九號證ニ基キ分與金三千円ニ対スル一ヶ年ノ利息金二百四十円ヲ被控訴人母子ニ寄贈シ其生活ノ費ニ充テシメタリ

九 来本件被控訴人ノ真意ニ依リ控訴セラルヽニアラサルヲ以テ親族会ノ本訴カ却テ被控訴人ノ不利益ニ帰センヿヲ憂慮シ居レリトヲフニアリ被控訴人秋本モト訴訟代理人ハ控訴人ノ控訴ニ之ヲ棄却ス原判決中原告ニ有解ノ請求ニ之ヲ却下ス訴訟費用中原告ノ欽産ニ因テ生シタルモノ及ビ訴状貼用印紙代ハ何ノ内ニ用並ニ爾余費用十分ノ三ハ原告ニ於テ負擔シ十分ノ七ハ被控訴人ノ負担トス

十、原告ハ廣田中村第五百七十八番屋敷ヲ被控訴人モトノ明治二十三年五月二十二日ノ隠居ハ其人ヲ欺キモノトス訴訟費用中被控訴人ノ第一審ニ於テ敗訴ニ因リ生シタルモノハ被控訴人ニ於テ負擔シ其余ハ第一ニ審共控訴人ニ於テ負擔スベシト判決シ其ハ七月

一、甲乙ノ間ニ而ハ事実係ニ付キ済述シタル
要旨ハ原判決事実ノ摘示ニ掲ケタル所ト同一ナリ
因テ各当方ノ済述中原判決ト同一ナル部分ノ摘示ヲ省ク
茲ニ原判決ヲ引用ス

理由

本件被控訴人前キニ元吉左衛門ノ後リ亦ケ秋本家ノ戸主
タリシガ明治二十三年五月二十日訴外人亡高橋一ノ第三子
タル控訴人ノ縁夫ニ貰受ケタル為メ戸主タル其時ニ控訴
人ヨリテ之ニ代ラシメタル事実ハ甲乙第一号證並ニ乙五号證ノ
一二ニ徴シテ明白ナリ故ニ本案ノ者間ノ戸主ト替ノ事竟他

日控訴人ヨリテ被控訴人ニ配セシメスシテ秋本家ノ家名ヲ亡
ニ貰受ノ後絶セサランヲ希望スルヨリシテ固ヨリ難ク要セ
サル所ナリシテ当時被控訴人ハ満三年ノ幼弟ナリシヲ以テ
親ノ家政ヲ執ル能ハサルヲ以テ止ムヲ得ス上家族ヲシテ存スル
モノハ寡婦タル実母マサ外ニ幼妹ツキノ外更ニ之ナカリシヲ以テ
有力ナル親族ノ後援ヲ仰カンカ為ノ御意ニ聲ヲ有スル
訴外人間一ノ実子タル控訴人ノ縁夫トシテ迎フルコトトナリ
被控訴人ノ場合ニ当ルニ且ツ斯ノ場合ニ係ル戸
主ノ代替ヲ要スル当時ノ慣例ナリシヲ以テ被控訴人ヲ
退隠セシムルニ到リタル事亦止ムヲ得サル顕甲乙一第乙五号証

ノ一二名ト七日弾正忠ニ当事有双方ノ陣迫浸合シテ
之ヲ推定スルニ離カニザルヨリ然リ而シテ甲九郎弾正兵衛
ノ二人ハ戸主代番ニ当時被推許人ノ後見人本間
源三郎ニ於テ遠法ニ被推許人ノ代表シ被推許人及
隱ニテ推許人戸主トナリタル旨記載シアリテ其届出方モ敢
テ工瑕疵アルヲ見ザルヨリ然ラバ則チ被推許人ノ退隱ニ要
スル後見人カ代ツテ為シタル意思表示ニ基クモノニテ當時ノ
制度ニ後見人カ此ノ如キ事為ニ関シ幼者ノ被後見人
ニ代リ表示シ来リタル行為ニ付キ意思表示ノ欠
ケタル行為ナリトシテ之ヲ取ツ消ス理ヨリ有効ニテ之ヲ無効
トナセル被推許人ノ主張到底排斥セザルカ得ザルヲ然リト
雖モ推許人カ秋本氣ノ戸主トナリタルニ副既ニ説述スル
如ク被推許人境遇ヲ憐ミ入籍シタルモノトアハサルヲカ為シテ
明白ナル推許人被推許人ト配偶ニテ相共ニ秋本氣ノ
繁栄ヲ企図シ統治淪ラザルベキハ固ヨリ其所ニテ秋本氣ニ入
籍スル意思自的ハ茲ニ存スルヲ以テ被推許人ハ秋本
氣ノ戸主トナリシヨリ僅ニ数年ヲ経タル明治二十七年十二月一日
即チ被推許人ノ齢漸ク十年七ヶ月ニ達スルニ及ブ其性質薄弱
識ニ遺尿癖其他不治ノ疾病併発シテ到底結婚ノ上家政
ヲ支持スル能ハサルニ付キ親族協議ノ末離縁ニ決シタリトノ理

由ヲ以テ祝捷許人ノ親族ハ此日殯出ヲ許スヲ要ス
ヲ明治廿年二月三十九日其家母マサノ共ニ山縣吉
敬郡上宮野村字二百六十一番屋敷ニ分家セシ
ムニ至リタルモ甲二三號証ニ依リ明瞭ニシテ而シテ甲五六
號証並ニ第一號ニ於ケル鑑定人北村順造ノ鑑定ニ徴シ
祝捷許人ハ其身体強健且ツ相當ノ學術ヲ修メタルモノ
ニシテ他日一家ノ主婦トシテノ家政ニ當ルニ足ルヲ認シ得テ余
リ感ヲ新ニスル當時ニ於ケルモ一生不治ノ疾病ニ罹リシニ
ヨリサル事迄ハ推定スルニ足ルノミナラス祝捷許人曾テ軽
微ナル黄疸病ニ罹リシニ過ギサルノ内人陳述ノ真実ナリト
認メサルベカラス假リニ祝捷許人ハ甲三號証ノ二ニ指示セル如キ
疾病ニ罹リシヲアリトスルモ普通ノ状態ニ在リテハ縁夫婦
ナル情誼上捷許人ハ切ニ祝捷許人ノ快癒ヲ希シ力
及ブ限リ迄當ノ看護ヲ怠ラサルベキ筈ナル動合ニシテ決シテ家
女タル祝捷許人ノ親族ナル可キ特別ノ原因ヲ生ジタリト
認ムル何ントナレハ同證ニ掲クル疾病ハ軽キハ全ク不治
ノ疾病ニアラサルヲ以テ當時祝捷許人ノ年齢僅ニ十年
七ヶ月ナルヲ明カナル以上ハ結婚ノ時期猶ホ数年ノ後ニ在リ
然ルニ徐々ニ其手癒ノ期ヲ待ツテ可ナリト決シテ金皇離
縁ヲ為スノ要ナシベカラス

理由（右ニ続ク）

識ニ甲ハ、辯訴並ニ答ノ（宗カ）ニ謂ル控訴人ノ演述ニ據レハ被控訴人ハ被控訴人ヲ離縁スルニ付キ其ハ一原因トシテ同人ハ先刑疾ノ遺傳アリトノ虚無ノ事實ヲ揺ヘ以テ親族ノ承諾ヲ求メタル事迹ヲ認メ謂ルナリ斯ノ如キハ苟モ養子トシテ他家ニ入リタルモノノ慣例言フニ忍ヒサル所控訴人カハ之ヲ公言シテ更ニモ憚ル所ナシ加之控訴人ハ被控訴人母子ニ向テ家産ニ付キ甲田某ノ証ノ金員ヲ分與シテヨリ同一ノ契約ハ被控訴人ノ成長ニ随ヒ夫婦ト為ラシムナルトキハ控訴人ノ意見ヲ以テ之ヲ處置スル可シトノ等ノ約旨ヲ掲ケ被控訴人ヲ壓抑シタル形跡歴々掩フ可ラサルモノアリ

且其分與金ノ如キハ毎年僅ニ三十円ニ對スル八年ノ利息ニ過キ無カリハ控訴人ノ陳述ノ應ルモ被本家ニ有スル資産三千円余ニ付之ニ比シ之ヲ考フレハ其實殆ント家女タル被控訴人ヲ遂棄シテ顧ミサルモノト一モ擬フ所ナキニ係ハ論シテ共判シハ控訴人ハ親テ若中途被控訴人ト離婚スルコト能ハサル事情ヲ生シタルトキハ疎親ヲ被本家ヲ遂ラシ自由ナルニ獨リ被控訴人ヲ不治ノ痼疾アルモノトシテ其ハ悪刑疾ノ遺事ヲ施シテ以テヘル如ク種々ノ口實ヲ構ヘテ之ヲ離縁シ且分與金ヲ減セシメタルモノト謂ハサル可カラサルナリ是レニ由リ之ヲ觀レハ控訴人ハ単ニ被控訴人ヲ遺棄セントノ悪意ヲ挾ムナカラ表面ノミ被控訴人ト配偶

ニ相共ニ私平等解禁ヲ全国ニ求メ希望ヲ有スルモノ多数
ニ被控訴人ヲ勝者トスル者アリト推定セ
ルヲ得サルニ付キ若シ被控訴人ニテ控訴人ニ対シ悪意アリシト
知リタランニハ控訴人ヲシテ入籍セシムル言ナリ控訴人ニテ入籍
セシムル者ニアラスンハ被控訴人自ラ退隠スルヲ以テ前論ハ敢テ
被控訴人ノ退隠事意控訴人ノ勝敗ニ関係セサリシ論
決セスンハ敢テ而シテ被控訴人ニ於テ本件撤廃ヲ退隠セサル
事実アリトシ控訴人ノ抗辯ニ其理由アリトシテ提出スル証人ノ供述ヲ
速ニ実ニスベト認ムルニ付信用スル能ハス已ニ無ラハ被控訴人ノ
退隠取消ノ請求ハ相当ナラスシテ控訴人ハ国ヲ推ス得サ

セノトス上来辯明ノ如クニシテ本件ハ再審ノ争点ニ関シ証據ノ
審査セサルモ其理由アリト判断スルニ十分ニシテ敢テ原判決ノ
失当ナリ免レス控訴人ノ何レモ其理由アルニハ原判決全部ヲ廢
棄シ更ニ判決アラシ訴訟費用ハ第一審訴訟費用ハ第一項
第七十五條ノ規定ニ従ヒ其負擔ヲ
定ムルヲ相当トス是シ主文ノ如ク判決ス

東京控訴院民事部 裁判長判事 周洲速太
判事 佐藤信
判事 阿部彰
判事 西島一八

右本ニ倣リ書写ノ作成ス

明治三十三年五月廿八日

広島控訴院検事局所属

中島字吉

誓　長矢本欽爾